

**WEEKLY SIGNAL**

2019年5月17日(金) 1474号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	5/20(月)	5/21(火)	5/22(水)	5/23(木)	5/24(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 2,000	+ 1,000	+ 1,000	トシ	△ 1,000
財政他	+ 1,200	△ 5,000	△ 1,000	△ 11,000	△ 2,000
資金需給	+ 3,200	△ 4,000	トシ	△ 11,000	△ 3,000
主要要因				国債発行(20年)	交付税特会発行・償還
オペ期日	共通担保 CP等買入	△ 1,500 △ 400			
オペスタート	国債買入 共通担保	+ 2,200 + 600	CP等買入 + 2,500		
(日本)	GDP(1~3月、速報値)		原田日銀審議委員、 金融経済懇談会で挨拶(長崎県) 日銀営業毎旬報告(5月20日現在)		全国CPI(4月)
(海外)	米パウエルFRB議長、講演	米シカゴ連銀総裁、講演 米ホストン連銀総裁、講演 米中古住宅販売件数(4月) 欧ユーロ圏消費者信頼感指数(5月)	米ニューヨーク連銀総裁、講演 米FOMC議事要旨(4月30日~ 5月1日開催分) 欧ドラギECB総裁、講演(フランクフルト)	米ダラス連銀総裁、サンフランシスコ連銀総裁、 アトランタ連銀総裁、リッチモンド連銀総裁が パネル討論 米新規失業保険申請件数(5月18日週) 米新築住宅販売件数(4月) 欧ユーロ圏総合PMI(5月)	

**【インターバンク市場】**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.045 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は、週初394兆3,900億円から始まった。その後は国債買入や国庫短期証券買入れオペを主因に増加し、週末には396兆800億円となった。無担保コールON物加重平均金利は、基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした資金調達ニーズの高まりを受けて週初△0.028%から始まり、積み最終日となる15日には△0.025%となった。一方、新積み期に入ると、ビッドサイドが慎重な調達姿勢をみせたことから、16日は△0.066%、17日は△0.068%となった。ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.050%~△0.035%の水準で出合が見られた。

内閣府が13日に発表した3月の景気動向指数からみた国内景気の基調判断は、2013年1月分の統計以来、6年2か月ぶりに景気後退の可能性が高いことを示す「悪化」となった。景気動向指数のうち、現状をあらわす一致指数の速報値は前月より0.9ポイント低下の99.6となり、1~2月の「下方への局面変化」から下方修正された。

来週の主な予定は、国内では1~3月期のGDP速報値(20日)や4月のCPI(24日)などがあり、海外ではパウエルFRB議長の講演(20日)やFOMC議事要旨公表(4月30~5月1日開催分)(22日)などがある。

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**<C P>**

今週の入札発行総額は約6,400億円で、週間償還額(約4,900億円)に対し発行超となった。発行市場は、5・10日発行の大型案件を除き、発行が少なく落ち着いたマーケットとなった。市場残高は16日時点で19兆6,900億円程度となり、先週末(19兆7,615億円)からやや減少した。発行レートは、投資家・ディーラーの旺盛な運用ニーズに変わりなく、引き続き0%からマイナスでの出合であった。CP等買入オペが、16日に2,500億円程度オファーされた。結果は、按分レート△0.001%・平均落札レート0.004%と、前回(按分△0.002%・平均落札0.001%)比上昇した。来週の償還総額(5/20~5/24)は、4,900億円程度となっている。発行市場は、週後半に5・10日発行での新規案件が予想され、発行超と思われる。発行レートは、投資家・ディーラーの運用ニーズが引き続き強く、0%からマイナスレートでの出合いとなろう。

**<TDB>**

今週の国庫短期証券市場は、先週と比べやや軟調な地合となった。16日入札の1Y832回債は最高落札レート△0.1553%(前回債△0.1651%)、平均落札レート△0.1603%(同△0.1691%)、17日入札の3M833回債は、最高落札レート△0.1463%(前回債△0.1526%)、平均落札レート△0.1527%(同△0.1602%)とどちらも前回債よりやや上昇した。

セカンダリー市場では3M物は△0.150%程度、1Y物が△0.158%程度の出合となった。

来週は24日に3Mの入札が予定されている。

**<レポ>**

足許GC取引は週初△0.055%~△0.065%から始まり、新積み期入りとなる16日受け渡しは△0.11%近辺まで低下。短国1Y、3Mの発行が重なった20日受け渡しでは△0.09%台まで上昇した。SC取引では5年139回債のbidが多く、国債買入オペがオファーされた14日受け渡し以降入札目日間で、△0.40%台半ば~△0.50%前半が出合の中心。10年353回債は週半以降△0.10%台半ばで多く取引された。その他2年398・399・400回債、5年137・138回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・354回債、20年164・165・166・167・168回債、30年59・60・61・62回債、40年10・11回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。